

今泉会長を再任

日合協

日本アスファルト合材協会（今泉保彦会長）は、東京都千代田区の大手町サンケイプラザで第13回定時総会を開き、2024年度の事業計や予算案などを審議、承認した。任期満了に伴う役員改選では、今泉会長を再任し、2期目に入った。

開会に当たり、今泉会長は「23年度の合材製造数量は、前年度を下回る3450万トとなった。1992年度に8000万トのピークを記録してから、最低の出荷数



量となる。製造原価の上昇に見合った価格転嫁も思うに任せない状況にある。アスファルト合材の安定供給は、国民生活の基盤を根底から支えている。今回の能登半島地震でも、その重要性は明らかであり、関係省庁をはじめ広く社会に働き掛けていくことが重要だ」とあいさつした。写真。

また、日合協は、働き方改革と脱炭素を優先課題として活動展開しているとし、引き続き、会員企業の4週8休の定着と土日休業の推進を支援すると表明。日本道路建設業協会と共同で行ってきた「低炭素アスファルト舗装の手引き」の編集作業が完了し、近くホームページで公開する予定なども紹介した。

役員改選では、八田邦裕大阪アスファルト合材協会会長、森下協一東亜道路工業社長の副会長統投なども決めた。

(5・16)

